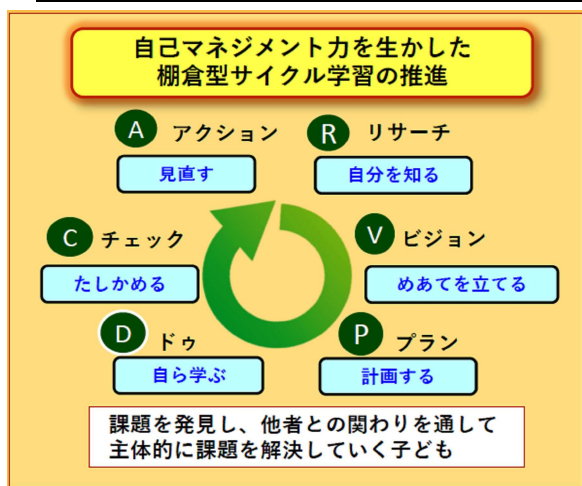


# 自己マネジメント力の育成について

## 1 棚倉型サイクル学習について

### (1) 家庭学習スタンダードとの違い

- PDCAにRを加えたのが県プランであり、本町ではRとPの間にVを入れている。これは、V（めあてを立てる）ことを位置づけ、「自分を知り、目標を立て、計画することを分け、自分で決めることにより子どもの自主性を伸ばす」ことを意図している。



### (2) 自分で決め、取り組み、振り返ること

- 重視していることは、自分で決めて、その成果を振り返り、新しい目標を持つことである。自分で決めたことには、主体的に取り組む場合が多く、成果を振り返り達成感を持つことで新しく目標が生まれ自分で計画し取り組むという好循環が期待できる。
- キャリア教育においては、この振り返りが重要な意味を持つ。やりっ放し、やらせっ放しでは、成果を意識できず、達成感も生じず、自己肯定感も得られにくい。

### (3) 学習計画表の活用

- 自己マネジメント力を育むためには、自分で決めて取り組み振り返った記録が必要である。記録に残すことで、教師が認め、ほめ、よい点を伸ばすことができる。さらに、それを元に成長を振り返ることができる。
- そのための方法として、学習計画表の活用がある。授業においても、家庭学習においても、発達段階に応じて、学習計画表を作成したい。発達段階（学年）に応じた学習計画表の作成は、学校全体、教職員全体の課題である。

### (4) 授業と家庭学習をつなぐ

- 自己マネジメント力を育むことは、授業と家庭学習をつないで学び続ける力を伸ばすことにつながる。授業と家庭学習を切り離して取り組むと、学び続ける態度を伸ばすことは困難になる。
- 導入における家庭学習との接続、展開における家庭学習の活用、終末における家庭学習の示唆など、積極的に取り組む必要がある。いつ休校になるか分からない今こそ、予習や復習から自主学習につなげる取り組みを考えていく必要があるのではないか。